

2021年10月4日

澁澤榮一 ゆかりの地巡り 深谷市など

企画委員会



コロナ緊急事態宣言の解除明けに、NHKでお馴染みの澁澤榮一ゆかりの地巡りをしました。凛々しい榮一が、家紋入りの袴で

登場します。「丸に違ひ柏」が印象的でした。

案内の労を取ってくださったのは、Y氏です。YE会員の永年の知己で、企画と案内をしてくださいました。ご自分の車を提供され、自ら一日運転をされることには、感謝のいいようがありません。氏は、澁澤榮一巡りの地理に精通されていて、一日が効率よく充実していました。

巡りの終段には、お菓子工場見学や農協の野菜直販場にも車を回してくださり食欲の興味も満たしてくださいました。

日時：2021年10月4日（月）日帰り

集合：東武東上線と光市駅 改札 8時50分

解散：同上 16時30分

費用：1,500円（ガソリン代、高速道路代相当）

参加者：6名

リーダー：YE

案内と運転：Y氏（自車提供）伊勢崎市生まれ、日本全国の寺社を20年でほとんど訪問、京都寺社マイスター2級

順路：集合；東武東上線と光市駅改札→和光市駅外→JR 深谷駅→清風堂・誠之堂→尾高惇忠生家→澁澤榮一生家

→澁澤榮一記念館→満徳寺（縁切り寺）

→徳川氏発祥の地→（初代）東照宮→忠治茶屋本舗

→ガトーフェスタ・ハラダ→JA 埼玉野菜直売所

→上里カンターレ→和光市駅；解散

JR 深谷駅

よくご存じの赤レンガ造り、東京駅を模したデザインの駅舎です。斜め下から見上げると、そっくりでした。JR 東京駅には深谷市産のレ

ンガが大量に使用されていて、そのご縁です。そして、深谷市がレンガ製造の拠点であることをアピールしています。駅舎が1996年に改築されて、この姿になりました。

明治期、新たな建築材料としてのレンガが日本国内に普及し



ましたが、澁澤榮一は大きな役割を果たしました。レンガは、この駅から鉄道で出荷されました。

誠之堂・清風堂 深谷市起会

もとは東京都世田谷区にあった、第一銀行の保養・スポーツ施設の建物でした。現在地深谷市起会に移築復元されました。大正時代を代表する建築物です。

誠之堂は、外観は西洋風の田舎屋で、室内は東洋的意匠になっています。レンガ造りですので、なるべく大きく壁を切断して、移築しました。



清風堂は、鉄筋コンクリート造りで、南欧田園趣味の外観です。大正12年の関東大震災後は、鉄筋コンクリート造りが主流になり、この建物が初期のもので

尾高惇忠生家 深谷市下手計

澁澤榮一の従兄が尾高惇忠で、10歳年長でした。論語をはじめとしていろいろな学問を、この従兄から学び、人生の背骨を創りました。

澁澤榮一の生業は、藍玉の製造・販売でした。上がり框に、実物の6寸藍玉の展示がありました。これ1玉が現在価格で10万円相当だそうです。



澁澤榮一生家（中の家） 深谷市血洗島

ボランティアさんから、由緒の説明がありました。この建物は、通称中の家（なかんち）と呼ばれていたそうです。この地の開拓者としての澁澤一族の分家の位置関係からの名づけです。



門は、ケヤキ一枚板両開きでした。くぐってすぐの左手に、澁澤榮一の銅像がありました。ちょんまげ姿で、刀をもった立ち姿です。1867年パリ万博で渡欧した際の姿だそうです。なお、後に妻が手紙で嘆いたのは、断髪で山高帽、手にはステッキの姿です。これは、後のことです。



この建物の左奥の座敷が、榮一の居場所でした。今回の訪問時には、床の間を背にした澁澤榮一のそっくり人形が鎮座していました。

澁澤榮一記念館 深谷市下手計

資料室には、澁澤榮一ゆかりの写真などを含む、数々の活動を示す資料が展示されていました。肉声を吹き込んだレコード盤の展示もありました。この当時は肉声を直接盤に刻んだそうです。

この建物の中庭に向いて、巨大な澁澤榮一の銅像が睥睨していました。

目を引いたのが、講義室で講義中の澁澤榮一の姿でした。出来栄えのよいアンドロイドで、講義室を覗くとこのアンドロイドが手を振り、中に入るよう迎えてくれました。



縁切り寺万徳寺 太田氏徳川



徳川家康による大阪冬の陣に備えて、豊臣方に嫁した千姫を引き取り住ませる予定のお寺でした。大阪城落城に際して、千姫は自刃したので家康の

思いは通じませんでした。参道の奥に寺の屋根が見えます。

初代東照宮 太田氏世良田徳川



日光にある東照宮は、三代家光が絢爛豪華に建て替えたもので、実は二代目になります。初代は、ここ徳川家発祥の地に移築されました。

忠治茶屋本舗 伊勢崎市上蓮町



名物焼きまんじゅうを、で賞味しました。甘い味噌のたれで、串に刺したまんじゅうを堪能しました。伊勢崎出身の芳澤氏によると、このソウルフードを子どもの頃よく食したそうです。

ガトーフェスタ・ハラダ 高崎市新町

お洒落な外観の建物で、中は甘い香りのするお菓子工場でした。ここでは、甘くて温かいラスクを試食できました。なかなかのお味で、一同満足しました。

参加しての感想

(東京都杉並区)

和光市駅の集合は初めての場所なので、久しぶりに早起き簡単な朝食を済ませ、遠足気分です1時間ほど電車に乗る。

和光市駅でKさんをはじめ7人のメンバーが揃うと、Yさんのワンボックスカーに乗り、関越自動車道を走り花園IC下車、左に深谷煉瓦で建築された赤い色の深谷駅を遠望、そして旧煉瓦製造施設に到着、次は澁澤榮一、ゆかりの建物、誠之堂を訪問、大正5年、澁澤榮一の喜寿を記念して第一銀行の役員たちの出資により建てられた。

次に訪れた清風亭は大正15年、佐々木勇之助の古希を記念して建てられたもの、そして次の訪問地は尾高惇忠の生家。亡くなった時に澁澤は「誰を頼って行けばいいのか」と呟いた。そして澁澤榮一誕生地の訪問となる。生家は随一の豪農で母屋は三層建て、柱のケヤキは黒光りしていた。誕生地を訪ねた後は、澁澤榮一記念館を訪問、近代日本経済の父、澁澤の座右の銘、先憂後楽、修己安人です。

午前中で、澁澤榮一に関わる歴史の旅は終える。昼はみんなで、忠治茶屋でアンをつける焼き饅頭を食べる。饅頭に付けるアンが絶妙な味、あとを引きます。次はガトーフェスタ・ハラダの工場を訪問、ここでの目的は目の前で焼いてくれるラスクを、無料のコーヒーを飲みながら頬張ること。工場を後にして上里カンターレ・サービスエリアに寄り、各々土産を買い求め、一日体験の楽しい旅を終え和光市駅に戻りました。

リーダーからの感想

(東京都豊島区)

当日は台風一過の素晴らしい天気。お世話する者として一安心。参加者は自家用車利用のため6名。関西から岸田ご夫妻が来られました。

案内人&運転手のY氏は僕の会社同期で50年来の友人です。彼は20年かけて日本全国の寺社仏閣をほとんどすべて巡ってきた男で真面目で楽しい人柄。彼の説明で澁澤榮一がより近い存在になりました。